

# JA全農 WEEKLY

4-5面

## 令和2年度事業計画のあらまし

(経営企画部)

3面

本所ホームページを全面リニューアル

(広報・調査部)



本所ホームページの全面リニューアルで三つの大きな窓口を設けたトップページ(3面)



4月6日から全国発売する(株)伊藤園と共同開発した粉末タイプの「濃い健康青汁」(6面)



溶接の出来栄や作業前、作業中の安全確認などで競った栃木県本部の溶接技能コンテスト(6面)

2 理事長新年度のごあいさつ  
(経営企画部)

6 (株)伊藤園と共同開発の「濃い健康青汁」を全国発売(営業開発部)  
東近江農機センターが完成(滋賀県本部)  
溶接技能コンテストを初開催(栃木県本部)

7 NO RICE NO LIFE PROJECT  
サイトをリニューアル(米穀生産集荷対策部)  
新型コロナウイルス対策で  
JAビル来訪者に花と牛乳プレゼント  
(総務人事部)

8 石川佳純選手出演のテレビCMが完成  
(広報・調査部)

ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介  
JA高知県四万十ショップ

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web限定

Web先行 花の消費拡大へ  
JAビルで職員に販売(総務人事部)

SDGsがテーマの新ラジオCM完成  
(広報・調査部)

生活情報誌「サンキュ!」の主婦記者と  
惣菜を共同開発(広報・調査部)



『JA全農ウィークリー』の  
ツイッターはこちらから



「すべては組合員のために、

そして消費者、国民のために」

5年後、10年後を

見据えた取り組みを深化・拡充



代表理事理事長  
山崎 周二

令和2年度の事業開始にあたり、一言「あいさつ」させていただきま。会員の皆さま、組合員の皆さまにおかれましては、本会事業につきまして格別のご支援とご協力を賜っておりますこと、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、本年度は令和元年より3年の中期3か年計画の2年目の年です。中期3か年計画においては、「すべては組合員のために、そして消費者、国民のために」という基本姿勢のもと、急速に変化する生産・流通・消費構造や海外情勢に対応するため、5年後、10年後を見据えた取り組みをすすめてまいります。

本年度の事業計画の基本的な考え方は、今次3か年計画の2年目として、米・青果物の直接販

売や資材の共同購入の拡大など自己改革の取り組みを加速するとともに、次の五つの最重点事業施策を深化・拡充し、本会グループ役員員の総力を結集して、この実現に取り組みます。第一に、「生産基盤の確立」では、労働力支援、革新的技術の導入・普及、契約栽培の拡大、および広域集出荷施設の設定など農畜産物の物流合理化に取り組みます。第二に、「食のトップブランドとしての地位の確立」では、全農グループMD部会による商品開発や、生産から消費までのバリューチェーンの構築に取り組みます。第三に、「元気な地域社会づくりへの支援」では、農村・中山間地域のライフライン対策や農泊への対応、ホームエネルギー事業の拡大をすすめます。第四に、「海外戦略の構築」では、輸出拡大に向けた既存輸出国における販売力強化、営業拠点の新規設置、および輸出産地の拡充に取り組みるとともに、購買部門における海外からの原料・資材の調達力強化をはかります。第五に、「JAへの支援強化」では、JAの経営分析等をふまえ、農家対応力強化、産地づくり、物流合理化、拠点型事業の一体運営等の支援に取り組みます。

加えて、全農グループ全体として経営資源の有効活用をすすめて、効率的な事業運営・経営管理に取り組みるとともに、グループ経営による会員への還元の仕事を検討します。また、JAの広域合併や県域JA組成等、JAの組織改革に対して必要な対応をすすめます。災害により農業生産に甚大な被害が発生した被災地に対する復旧・復興支援、およびCSFをはじめとする重要家畜疾病の発生防止対策と営農再開支援についても、JA・県連・本会グループが一丸となって取り組みます。さらに、持続可能な開発目標(SDGs)について今後設定されるJAグループの取組方針にもとづき、本会の事業を通じて、その達成に向けた取り組みをすすめます。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大しており、農畜産物の需要減少や各種イベントの中止など本会事業への影響も少なからず出ています。依然予断を許さない状況ですが、皆さまの営農や生活に支障のないよう、役員一丸となつて取り組んでまいります。

本年度も引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。

# 本所ホームページを全面リニューアル

より分かりやすく、親しみやすく

全農は本所ホームページを全面リニューアルしました。生産者やJA関係者をはじめ、全農になじみの薄い一般消費者の方々にとっても、より全農の取り組みや役割が伝わるページを追求しました。

【広報・調査部】

全面リニューアルは7年ぶり  
で、3月26日に公開しました  
(トップページのみ、先行してリ  
ニューアルし、昨年8月に公開)  
スマートフォンでの表示にも対応

## 消費者を 呼び込む構成に

今回のリニューアルでは、一般



三つの大きな窓口を設けたトップページ

消費者にとって分かりやすいページにすることを強く意識しました。トップページの「日本の食を味わう」の窓口からは全農が展開する飲食店やECサイトなどの情報を集めたページに、「食と農を体験する」の窓口からは食育関連のイベントや農泊といったサービスなどの情報を集約したページに移ります。国産農畜産物を「食べた」、農業に関する

「体験をしたい」という思いを持った方が、求める情報にすぐにアクセスできる構成です。また、「食でスポーツを応援」の窓口からは、全農所属の石川佳純選手をはじめとするスポーツ関連のコンテンツが楽しめます。

さらに、食関連の商品情報や広報誌、情報サイトなどを集約した「消費者のみなさまへ」ページ、全農が提供する、くらしの身近なサービスや食関連の商品などのコンテンツを集約した「サービスと商品」ページも設けました。

## 旬の話題を随時発信

継続的にホームページを訪れていただくため、常に新しい情報に触れられるページにすることも力を入れました。例えば、トップページの「PICKUP」コーナーでは、新たな取り組みなどをアピールしたい情報を画像付きで掲載し、より詳しいページにつなぎます。『JA全農ウィークリー』WEBと連携し、食関連の

## 事業情報、 営農情報の発信にも力

新商品やスポーツ関連の最新記事を集めたページに誘導するバナーを設けるなどしました。

全農の各事業については、計15事業について紹介ページを作成。各事業のページとも、全農の役割を図などで紹介する他、関連データや最新の取り組みなどを掲載しました。耕種、畜産農家の方々それぞれに役立つ営農支援情報などを集めた「生産者・会員JAのみなさまへ」ページも設けました。



米穀事業の紹介ページ



JA全農ウィークリーWEBの最新記事のページに誘導するバナー

注目の  
ページ

生産者・ 会員JAの みなさまへ	事業紹介	サービスと 商品	消費者の みなさまへ	トップページ
------------------------	------	-------------	---------------	--------

# 令和2年度事業計画のあらまし

## 情勢認識

### 今次3か年(令和元~3年度)における本会の取り組み

- 1 自己改革の取り組みの加速化
- 2 5つの最重点事業施策(生産基盤の確立、食のトップブランドとしての地位の確立、元気な地域社会づくりへの支援、海外戦略の構築、JAへの支援強化)の実践

### 国内農業における課題等

- 1 農業就業人口の急速な減少により深刻化する労働力不足への対策
- 2 農畜産物を輸送するドライバー不足への対応
- 3 中食・外食市場の拡大による加工・業務用需要への対応
- 4 大雨・台風などによる被害からの復旧・復興に向けた迅速な対応
- 5 TPP11、日EU・EPAに続く、日米貿易協定の発効

## 令和2年度事業計画の基本的な考え方

### 自己改革の取り組みの加速化および最重点事業施策の着実な実践

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 自己改革の取り組みの加速化<br/>米・青果物の直接販売や資材の共同購入の拡大</li><li>2 生産基盤の確立<br/>労働力支援、革新的技術の導入・普及、契約栽培の拡大、農畜産物の物流合理化</li><li>3 食のトップブランドとしての地位の確立<br/>全農グループMD部会による商品開発、生産から消費までのバリューチェーンの構築</li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>4 元気な地域社会づくりへの支援<br/>農村・中山間地域のライフライン対策や農泊への対応、ホームエネルギー事業の拡大</li><li>5 海外戦略の構築<br/>輸出拡大に向けた既存輸出国での販売力強化、営業拠点の新規設置、輸出用産地の拡充、および購買部門における海外からの原料・資材の調達力強化</li><li>6 JAへの支援強化<br/>JAの経営分析等をふまえた、農家対応力強化、産地づくり、物流合理化、拠点型事業の一体運営等の支援</li></ol> |
|--|---|

### 全農グループ全体としての取り組み

1. 本会グループの事業競争力強化に向けた経営資源の有効活用と、効率的な事業運営・経営管理
2. グループ経営による会員への還元の仕組みの検討

### JAの組織改革への対応

地域の実態やJAのニーズに応じた、JAの広域合併や県域JA組成への対応の検討・実施

### 災害・家畜疾病被害からの復旧・復興

地震・台風等の被災地に対する復旧・復興支援の実施、CSF等の発生防止対策と営農再開支援の実施

### 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

今後設定されるJAグループの行動方針にもとづく、本会の事業を通じたSDGsの達成に向けた取り組み

# 事業別実施具体策

※金額は令和2年度取扱計画、カッコ内は前年計画比

## 米穀農産事業 7,446億円(107%)

- 1 JAと連携した集荷確保・拡大
- 2 需要に応じた生産と直接販売等による生産者の手取り確保
- 3 パールライス事業の強化と消費拡大
- 4 麦・大豆等の生産振興と需要確保

## 園芸事業 12,720億円(113%)

- 1 生産者手取りの確保・安定化に向けた直販事業の拡大
- 2 JAとの連携強化による生産基盤の維持・拡大
- 3 消費の変化に対応した国産青果物販売体制の構築
- 4 産地と消費地を効率的につなぐ物流網の整備

## 営農・生産資材事業 8,289億円(103%)

- 1 共同購入の加速化と農家手取り最大化の取組拡大
- 2 新技術・新品目提案による生産基盤の維持・拡大
- 3 多様な農業者ニーズへの対応とJAへの支援の強化

## 畜産事業 10,792億円(103%)

- 1 畜産販売事業の競争力強化
- 2 畜産生産基盤の支援・補完および革新的な商品・技術の開発と普及
- 3 配合飼料の競争力強化と飼料原料の有利・安定確保
- 4 生乳・乳製品の有利販売の強化

## 生活関連事業 9,152億円(100%)

- 1 国産農畜産物の販売拡大とAコープ会社の事業競争力強化
- 2 ライフライン対応など地域のくらし支援に向けた取組強化
- 3 電力事業を起点としたホームエネルギー事業の展開
- 4 燃料供給体制の維持・強化と事業体制整備

## 営業開発・ フードマーケット事業・ 輸出対策

- 1 全農グループの総合力を発揮した商品開発と営業強化
- 2 国産農畜産物の販売拡大に向けたEコマースおよび飲食店舗等の積極展開
- 3 JAグループ結集による輸出拡大

# 令和2年度経営計画

取扱高は、米穀農産事業における米の取扱数量の拡大や、園芸事業における実需者ニーズをふまえた生産振興の取り組みによる増加等を見込み、4兆8,400億円を計画します。

(単位:億円)

事業	2年度計画	30年度実績	実績比	(参考) 3か年計画2年度
米穀農産事業	7,446	6,932	107	7,460
園芸事業	12,720	11,288	113	12,900
営農・生産資材事業	8,289	8,054	103	8,140
畜産事業	10,792	10,462	103	10,940
生活関連事業	9,152	9,190	100	9,060
合計	48,400	45,925	105	48,500

(注)消費税については、税抜表示です。また、端数処理の関係上、合計等が一致しないことがあります。

## 「濃い健康青汁」を全国発売

(株)伊藤園と共同開発

営業開発部



濃厚な味わいが特長の「ケール」を主体に「大麦若葉」と「香々地長命草(ポタンボウフウ)」をブレンドし、飲み応えのある味わいに仕上げました。また、毎日飲み続けられるよう、伊藤園が選定した「緑茶」と「抹茶」もブレンドし、おいしさを追求しました。無糖の青汁市場は一層の伸長が期待できるため、今後さらなる商品開発に取り組む方針です。

営業開発部は、株式会社伊藤園と共同で、5種の国産原料を使用した「濃い健康青汁」(粉末タイプ、15袋入り)を4月6日から全国発売します。

## 東近江農機センターが完成

拠点集約しサービス向上

滋賀県本部



完成した東近江農機センター

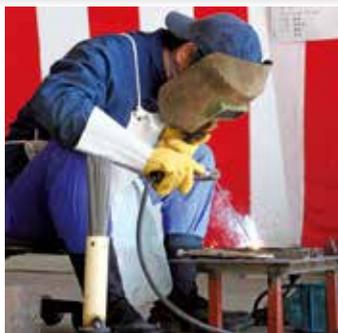
これまでであった三つの農機センターを、東近江農機センターに集約しました。修理工場は約300平方メートル、同時に5台の修理・整備を行える他、電動クレーンを設置するなど大型農機の整備にも対応することができま。地域の農家組合員に対して、より迅速な対応を可能にし、満足度の向上と利用拡大を目指します。

滋賀県本部は3月4日、滋賀県東近江市に建設した「東近江農機センター」の竣工式を行いました。

## 溶接技能コンテストを初開催

農機センターの技術・信頼度向上へ

栃木県本部



溶接の出来栄や作業前、作業中の安全確認などで競った溶接技能コンテスト

山口芳春生産資材部長は冒頭のあいさつで「本大会をきっかけに、若手はベテランから技術を学び、ベテランは若手に経験や知識を教えることで、全体的な技術の向上を実現してほしい」とセンター職員に呼び掛けました。  
一般部門では岡本和貴さん(はが野)が、ベテラン部門では塚原昭雄さん(なす南)が最優秀賞を獲得しました。

栃木県本部は2月18日、農機センター職員が、アーク溶接機を使って鋼材を接合させる技術を競い合いました。溶接の出来栄、作業前や作業中の安全確認などが審査項目です。  
はが野、しもつけ、なす南の各広域農機センターの職員が、アーク溶接機を使って鋼材を接合させる技術を競い合いました。溶接の出来栄、作業前や作業中の安全確認などが審査項目です。  
「溶接技能コンテスト」を初めて開催しました。



# NO RICE NO LIFE PROJECTサイトをリニューアル

米消費拡大へ多様な魅力発信

米穀生産集荷対策部



「NO RICE NO LIFE PROJECT」の新たなトップページ。お米料理のレシピ、最新研究で分かった米の機能性など、米に関する情報を発信中



全農は米の消費拡大へ、お米に関する情報を発信するポータルサイト「NO RICE NO LIFE PROJECT」をリニューアルしました。

お米の魅力伝えたい！  
ライスライダースの  
Twitterも始めます

ライスライダー  
知ってるか...?  
茶わん1杯にお米が  
何粒入っているか...!!



「地味だけおいしい」地味弁のサイトでは様々なレシピを紹介中

NO RICE NO LIFE PROJECT  
サイトはこちら

リニューアルでは、よりお米を楽しんでいただける内容に更新しました。新キャラクター・ライスライダーによるお米の情報・豆知識の紹介をはじめ、体にはたらくお米の機能性や10人の料理家が考えた家庭にある食材で手軽に作れ、「地味だけおいしい」地味弁など、さまざまな情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



# 花と牛乳、JAビル来訪者にプレゼント

新型コロナウイルスによる需要減受け、消費拡大呼び掛け

総務人事部



全農職員からバラを受け取る来訪者(右)

新型コロナウイルスの影響による卒業式といったイベントの開催中止や学校給食の停止などで、花や牛乳は需要の落ち込みが懸念されています。こうした状況を受け、少しでも消費拡大につなげるために、全農は3月17日から、打ち合わせにJAビルを訪れた取引先の方々に、バラなど生花をプレゼントする取り組みを、18日からは無料で牛乳を一つ提供する取り組みを始めました。取り組みは1カ月間続け、状況を見ながら継続も検討します。

新型コロナウイルスの影響で需要が落ち込んでいる花や牛乳の消費拡大の一環として、全農は東京・大手町のJAビル来訪者に、花や牛乳をプレゼントする取り組みを展開しています。



# 石川佳純選手出演のテレビCMが完成!

メイキング動画やどんぶりレシピなど関連情報も発信

全農は、本会所属の石川佳純選手が出演するテレビCM「大地のエール」篇を新たに制作しました。3月10日に全農ホームページでCMを公開、メイキング動画やオリジナルどんぶりのレシピなど関連情報も順次公開しています。【広報・調査部】

今回のCMは、「挑み続ける人を日本の食で支えたい」「大地のエールをいただきます」をコンセプトに制作しました。石川選手がひたむきにプレーする姿やどんぶりをおいしそうに食べる様子、生産者や農産物の映像を交えながら、石川選手と生産者が互いに励まし合うストーリーになっています。

CMのメイキング動画も作成しました。石川選手をはじめ、生産者の撮影風景やオフショットなど、普段は目に見ることができないシーンが盛りだくさんです。動画のBGMは、「全農の食の応援団」のアイドルグループ「虹のコンキスタドル」とのタイアップソング「響け! ファンファーレ」を使用しました。



どんぶりを食べる石川選手のシーン

CMやメイキング動画が閲覧できる  
全農のホームページはこちら



毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH

## COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

4月11日放送のプレゼントは、淡路島ベジスイーツ焼菓子セット(15種類)です。淡路島でとれた野菜やフルーツの素材の味を生かした、甘さ控えめのスイーツです。是非、ご賞味ください。また、JAタウンギフトカード4,500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは4月11日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン <https://www.ja-town.com/shop/g/5401-petitpas002/>  
(ショップ名:あつめて、兵庫。)



JA全農のインターネットショッピングモール

### JAタウン ショップ紹介

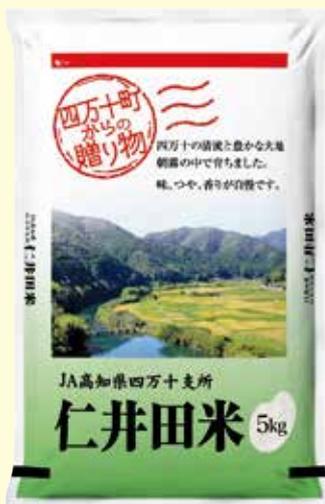
#### JA高知県四万十ショップ

JA高知県四万十ショップから「仁井田米5kg」を紹介します。高知県の西部に位置する四万十町(旧窪川町)は、清流「四万十川」が流れる自然豊かな土地と標高230mという立地条件が生み出す昼夜の寒暖差により古くから良質米が生産されています。

この地域で栽培されたお米は「仁井田米」と呼ばれ、古くは土佐藩初代藩主(藩主)の山内一豊公が土佐を巡回した記録の中に、この地域が仁井田郷と呼ばれていたことからその名が付き、地元ブランド米として古くから高知県内では親しまれてきました。

品種は、町内で作付面積が最も多い「ヒノヒカリ」で、「コシヒカリ」に比べやや小粒ですが、産地特有の栽培環境により甘みが強く、粘り・香りの良いお米です。

また、同JAは高知県で唯一のカントリーエレベーター(大規模乾燥調製貯蔵施設)を保有しており、注文を受けてからもみすりを行うため年間を通じて新米に近い状態でお届けすることができます。



仁井田米(ヒノヒカリ)  
5kg.....3190円

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)